

富士川水系河川整備計画 (河川環境関連資料)

- 釜無川は、富士川管内の中でも特に急勾配で、河道幅が広いものの流路幅は狭く瀬が連続し、明瞭な淵が少ない。また、自然裸地や草本群落が大部分を占め高頻度で攪乱を受ける区間である。砂礫地には、カワラヨモギ等が生育・繁殖し、草地には、ミヤマシジミの食草となるコマツナギ等が生育・繁殖している。水域では、連続する瀬や淵が形成され、瀬を産卵場とするアユやウグイ等が生息・繁殖している。
- 代表区間である79km～80kmは区間を代表する環境(低・中荖草地、自然裸地、水際の複雑さ)が良好で、アユ、ウグイ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やカワラヨモギ、イカルチドリ等が生息・生育・繁殖する礫河原も確認でき、さらに地点を見渡せる視点場がある。

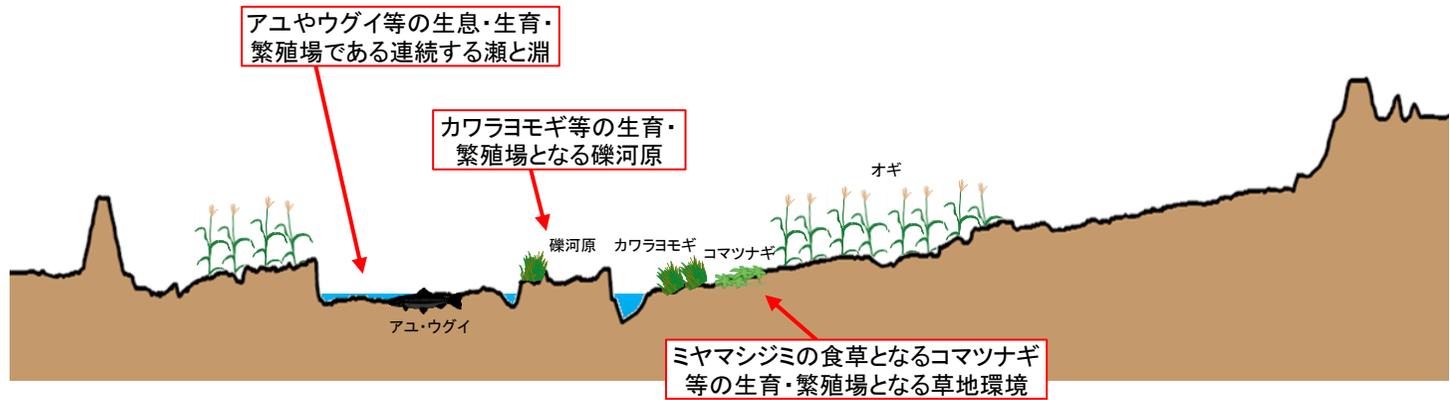
距離標		65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85
河川区分		富士川上流部																				
大セグメント区分		セグメント2-1										セグメント1										
典型性	陸域	1. 低・中荖草地																				
	水際域	2. 河辺性の樹林・河畔林																				
		3. 自然裸地																				
		4. 外来植物生育地																				
		5. 水生植物帯																				
	水域	6. 水際の自然度																				
		7. 水際の複雑さ																				
	汽水	8. 連続する瀬と淵																				
		9. ワンド・たまり																				
	10. 湛水域																					
	11. 干潟																					
	12. ヨシ原																					
生息場の多様性の評価値		1	5	2	4	3	5	4	3	3	2	2	1	0	4	4	2	6	1	1	4	2
生物との関わりの強さの評価値		1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0
視点場の有無			○			○		○			○				○		×		○	○		



代表区間の斜め写真

セグメントが異なるため
代表区間選定対象外とした

79km～80kmは△であるものの、
ほぼ中央値の自然裸地や瀬・淵がある。



代表区間の断面イメージ

釜無川の代表区間の河川環境

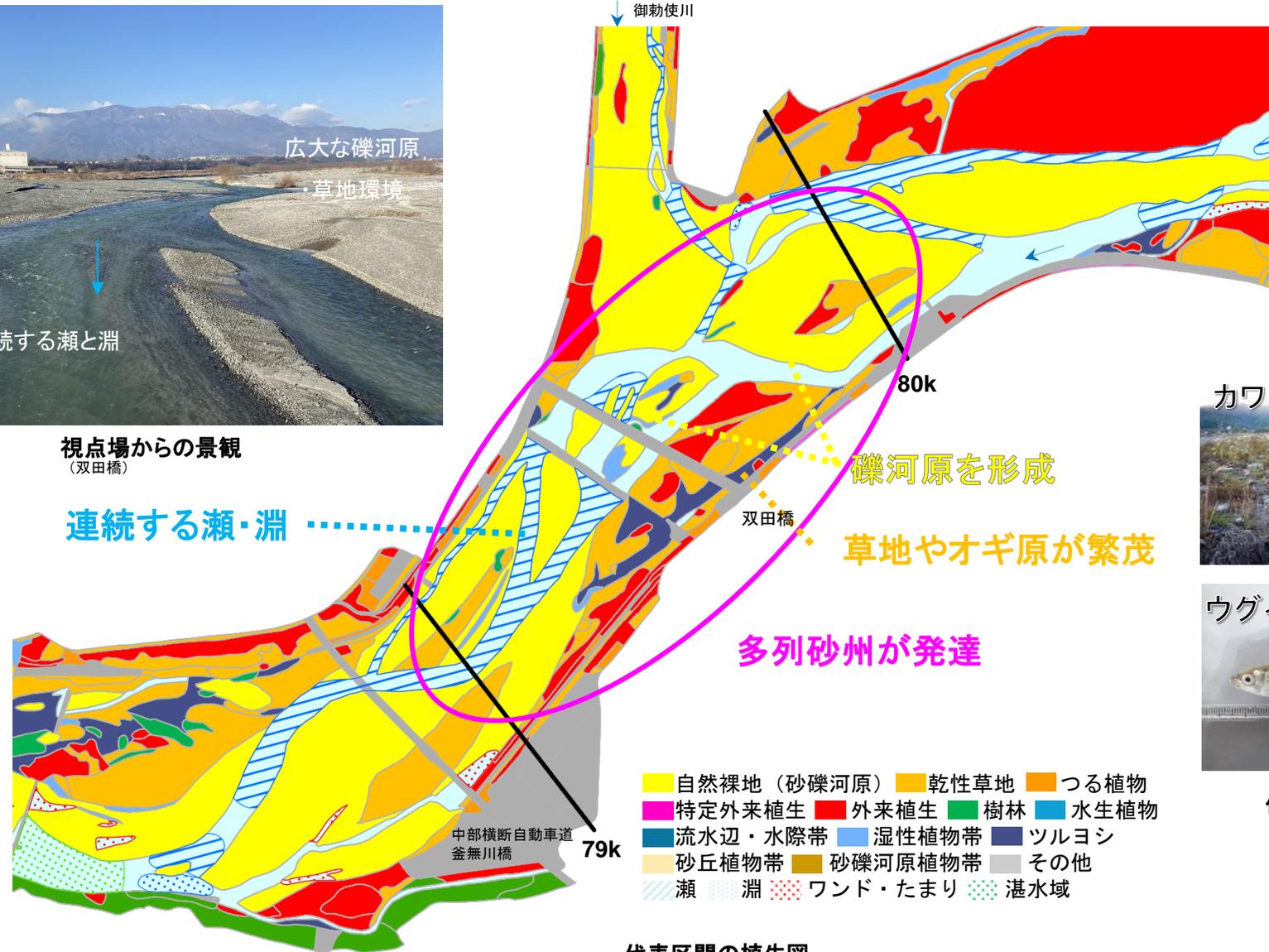
○主な環境:ウグイ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やカワラヨモギ等が生育する礫河原

○代表区間である79km~80kmでは、釜無川の特徴的な環境要素である「礫河原」、「草地環境」、「オギ群落」、「瀬・淵」が良好な状態で維持されており、今後、釜無川で整備を行う際には、当該区間を見本として良好な環境を維持できるように留意する。



視点場からの景観 (双田橋)

連続する瀬・淵



代表区間の植生図



カワラヨモギ



ウグイ

代表的な生物

- 自然裸地 (砂礫河原) 乾性草地 つる植物
- 特定外来植生 外来植生 樹林 水生植物
- 流水辺・水際帯 湿性植物帯 ツルヨシ
- 砂丘植物帯 砂礫河原植物帯 その他
- 瀬 淵 ワンド・たまり 湛水域

河川環境区分と代表区間【釜無川】

- 釜無川の代表区間は、79km～80kmであり、区間を代表する環境(低・中葦草地、自然裸地、水際の複雑さ)が良好で、アユ、ウグイ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やカワラヨモギ、イカルチドリ等が生息・生育・繁殖する礫河原も確認でき、さらに地点を見渡せる視点場があることから選定した。
- 保全区間は、77km～78kmであり、歴史文化的に価値の高い治水目的の構造物である信玄堤を保全対象とした。
- 河川整備計画の整備箇所のうち79km～80kmは代表区間に該当するため、整備に当たっては、良好な瀬淵や自然裸地の保全を図りながら対応する。

河川環境区分: 富士川上流部(釜無川) (65km～86km)



距離標	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85
河川区分	富士川上流部																				
大セグメント区分	セグメント2-1											セグメント1									
生息場の多様性の評価値	1	5	2	4	3	5	4	3	3	2	2	1	0	4	4	2	6	1	1	4	2
生物との関わりの強さの評価値	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0
代表区間の選定結果																★					
保全区間の選定結果														★							
視点場の有無		○			○		○			○			○		○		×		○	○	
河道掘削																					

○富士川中流部のうち、富士川大橋から早川合流部にかけては山地の間を蛇行しながら流れ、瀬・淵が連続する区間であり、比較的川幅が狭く、一時的に勾配が緩やかな区間では自然裸地や連続する瀬・淵が分布している。砂礫地ではイカルチドリ等が確認され、オギ群落にはカヤネズミ、オオヨシキリ等が生息・繁殖している。また、山間の崖地に営巣するカワセミや連続する瀬・淵を生息・繁殖の場とするカジカ等が生息している。

○代表区間である49km～50kmは、区間を代表する環境(水際の自然度、連続する瀬・淵)が良好で、アユ、カジカ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境、イカルチドリ等が生息・繁殖する礫河原、カヤネズミやオオヨシキリが生息・繁殖するオギ群落、カワセミが営巣する崖地が確認され、さらに地点を見渡せる視点場がある。

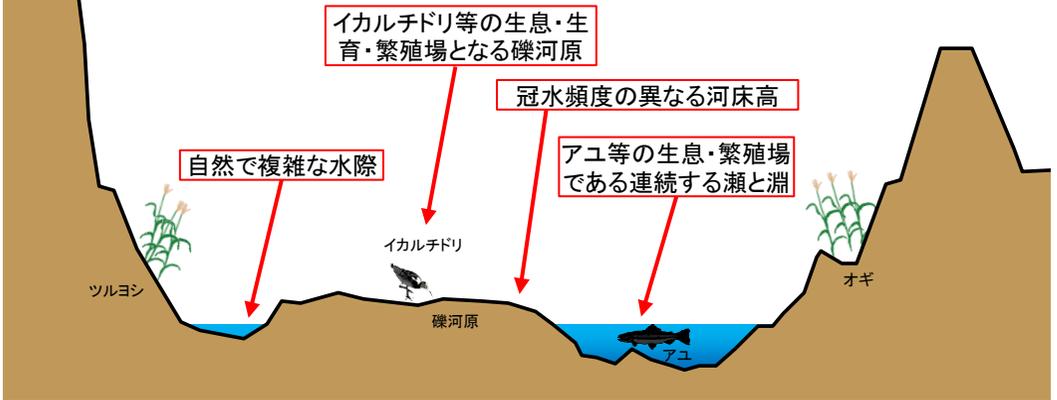
距離標		47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64		
河川区分		富士川中流部																			
大セグメント区分		セグメント2-1																			
典型性	陸域	1. 低・中茎草地			△		○		△									○		△	
		2. 河辺性の樹林・河畔林	○	△	△	△	△	△	○	△	△	○		○	○	△	○	○	○	○	
		3. 自然裸地	○	△	△	○	△	△	○	○	△	△	○	○	△	△	△	△	○	○	
	水際域	4. 外来植物生育地	×	△	△	△	△	△	△	×	△	×	×	△	△	△	×	×	×	×	
		5. 水生植物帯								△								△	△	○	○
		6. 水際の自然度	○	△	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
	水域	7. 水際の複雑さ	△	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○
		8. 連続する瀬と淵	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△
		9. ワンド・たまり		△	○	△	○	○		○							△	△		△	△
	汽水	10. 湛水域																			
		11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値		3	2	4	4	3	5	3	3	1	2	2	5	4	1	2	3	4	4		
生物との関わりの強さの評価値		2	1	1	2	1	1	1	2	1	1	2	2	1	0	0	0	2	1		
視点場の有無			○	○		○	×			○						○		×	○		



49km～50kmは△であるものの、ほぼ中央値の自然裸地がある。



代表区間の斜め写真

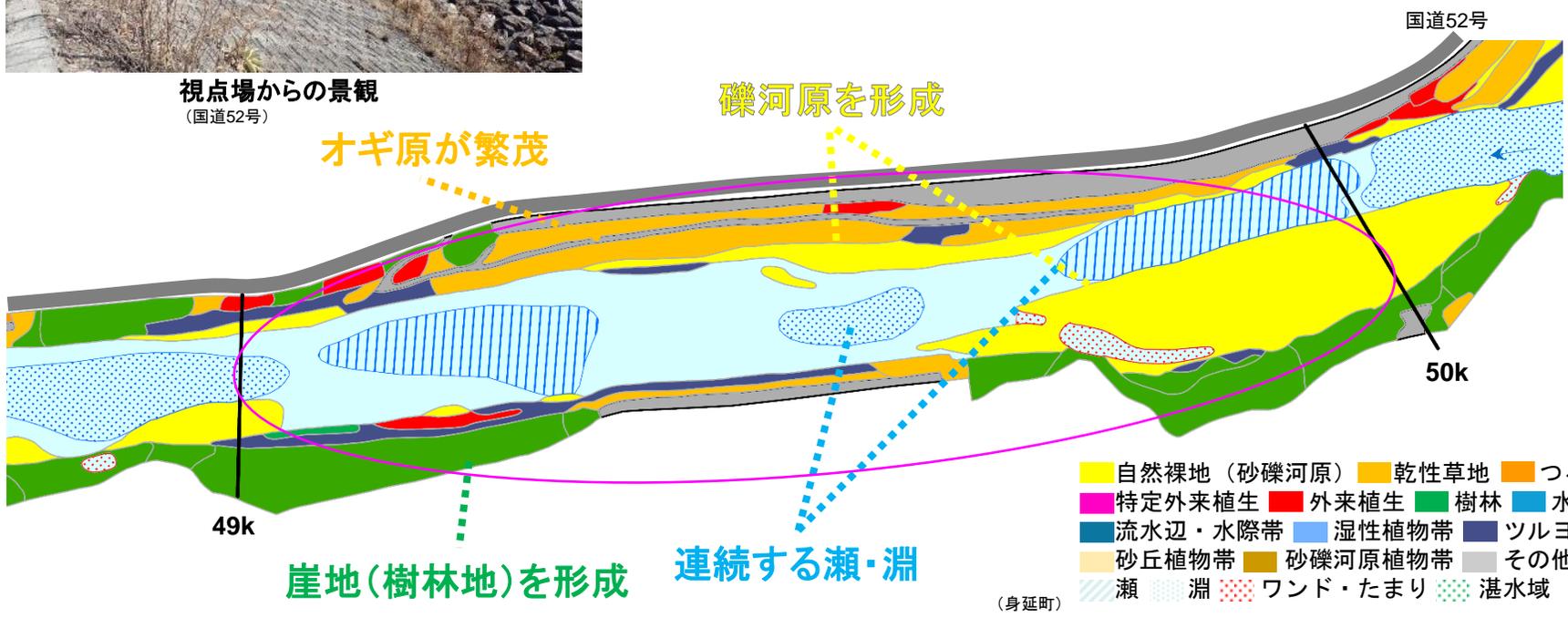


代表区間の断面イメージ

○主な環境: カジカ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やイカルチドリが生息・繁殖する礫河原、カヤネズミやオオヨシキリが生息・繁殖するオギ群落
 ○代表区間である49km～50kmでは、富士川中流部の特徴的な環境要素である「礫河原」、「オギ群落」、「連続する瀬・淵」、「崖地」が良好な状態で維持されており、今後、富士川中流部で整備を行う際には、当該区間を見本として良好な環境を維持できるように留意する。



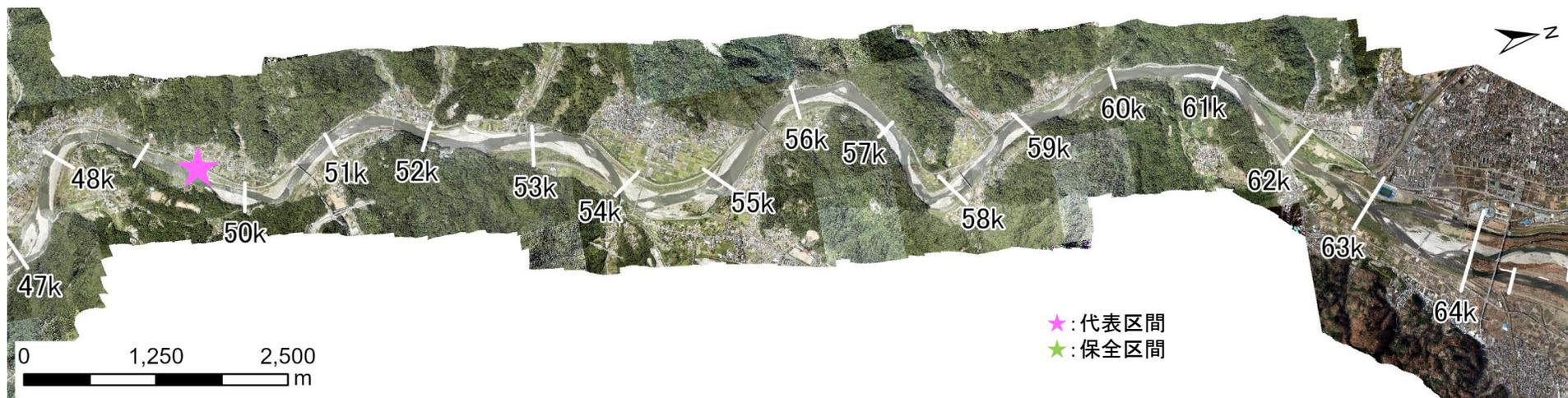
代表的な生物



代表区間の植生図

- 富士川中流部のうち、富士川橋から早川合流部にかけての区間における代表区間は49km～50kmであり、区間を代表する環境(水際の自然度、連続する瀬・淵)が良好で、アユ、カジカ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境、イカルチドリ等が生息・繁殖する礫河原、カヤネズミやオオヨシキリが生息・繁殖するオギ群落、カワセミが営巣する崖地が確認され、さらに地点を見渡せる視点場があることから選定した。
- 河川整備計画の整備箇所が、代表区間や保全区間と重なる区間はない。

河川環境区分: 富士川中流部 (47km～65km)



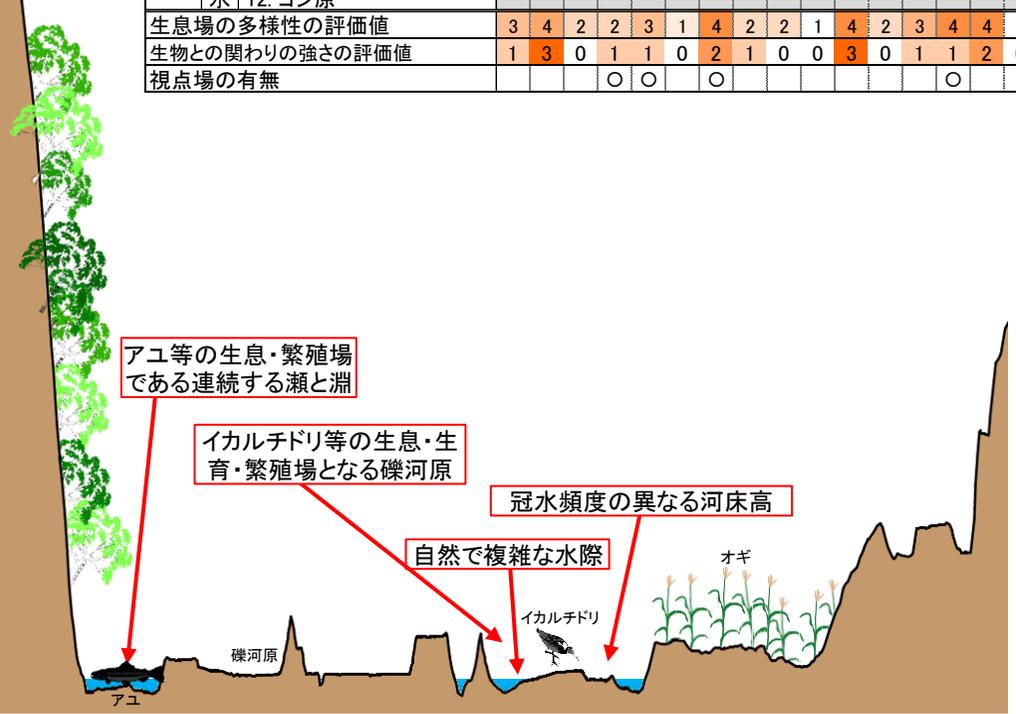
距離標	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64
河川区分	富士川中流部																	
大セグメント区分	セグメント2-1																	
生息場の多様性の評価値	3	2	4	4	3	5	3	3	1	2	2	5	4	1	2	3	4	4
生物との関わりの強さの評価値	2	1	1	2	1	1	1	2	1	1	2	2	1	0	0	0	2	1
代表区間の選定結果			★															
保全区間の選定結果																		
視点場の有無		○	○		○	×		○						○			×	○
河道掘削																		

○富士川中流部のうち早川合流部から雁堤上流にかけては急峻な山地の間を蛇行しながら流れ、網目状に自然裸地(砂礫地)が発達し瀬淵が連続する区間である。砂礫地ではイカルチドリやコアジサシ等の鳥類やカワラハハコ等の河原植生が確認され、連続する瀬・淵を生息・繁殖の場とするカジカ等が生息している。

○代表区間である24km~25kmは、区間を代表する環境(低・中茎草地、自然裸地、水際の自然度、連続する瀬・淵)が良好で、アユ、カジカ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境、イカルチドリ等が生息・繁殖する礫河原が確認され、さらに地点を見渡せる視点場がある。

距離標		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46							
河川区分		富士川中流部																																														
大セグメント区分		セグメント1																																														
典型性	陸域																																															
	1. 低・中茎草地	○							△	△							△			○		△	○	△																○	○	△						
	2. 河辺性の樹林・河畔林	△	○	○	△	△			○	△			○	○		△		△			○	△	△	△	△	△	△	△	△												○	○	△	○	△			
	3. 自然裸地	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	4. 外来植物生育地	△	×	×				△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	5. 水生植物帯	△	△	△																																												
	6. 水際の自然度	○	○	○	○	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	7. 水際の複雑さ	△	△	△	△	○	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	8. 連続する瀬と淵	○	○	△	○	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	
	9. ワンド・たまり	△	○	○	△	○			○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△
	10. 湛水域								△									△																														
	汽水																																															
11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
生息場の多様性の評価値		3	4	2	2	3	1	4	2	2	1	4	2	3	4	4	1	2	5	4	1	2	4	3	1	2	3	2	2	2	2	2	5	4	2	0	3	3	5	7	2	3						
生物との関わり強さの評価値		1	3	0	1	1	0	2	1	0	0	3	0	1	1	2	0	3	2	0	0	0	0	2	0	2	3	2	2	1	1	3	3	1	2	2	3	3	3	2	3							
視点場の有無					○	○		○							○				○	○	×	×		○				×						○						×		○						

コナラやケヤキ等の樹林地



代表区間の断面イメージ



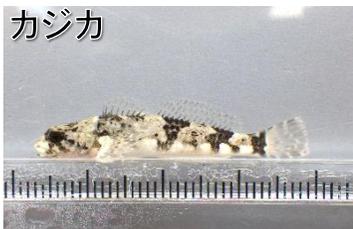
代表区間の斜め写真

○主な環境:カジカ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やイカルチドリが生息・繁殖する礫河原

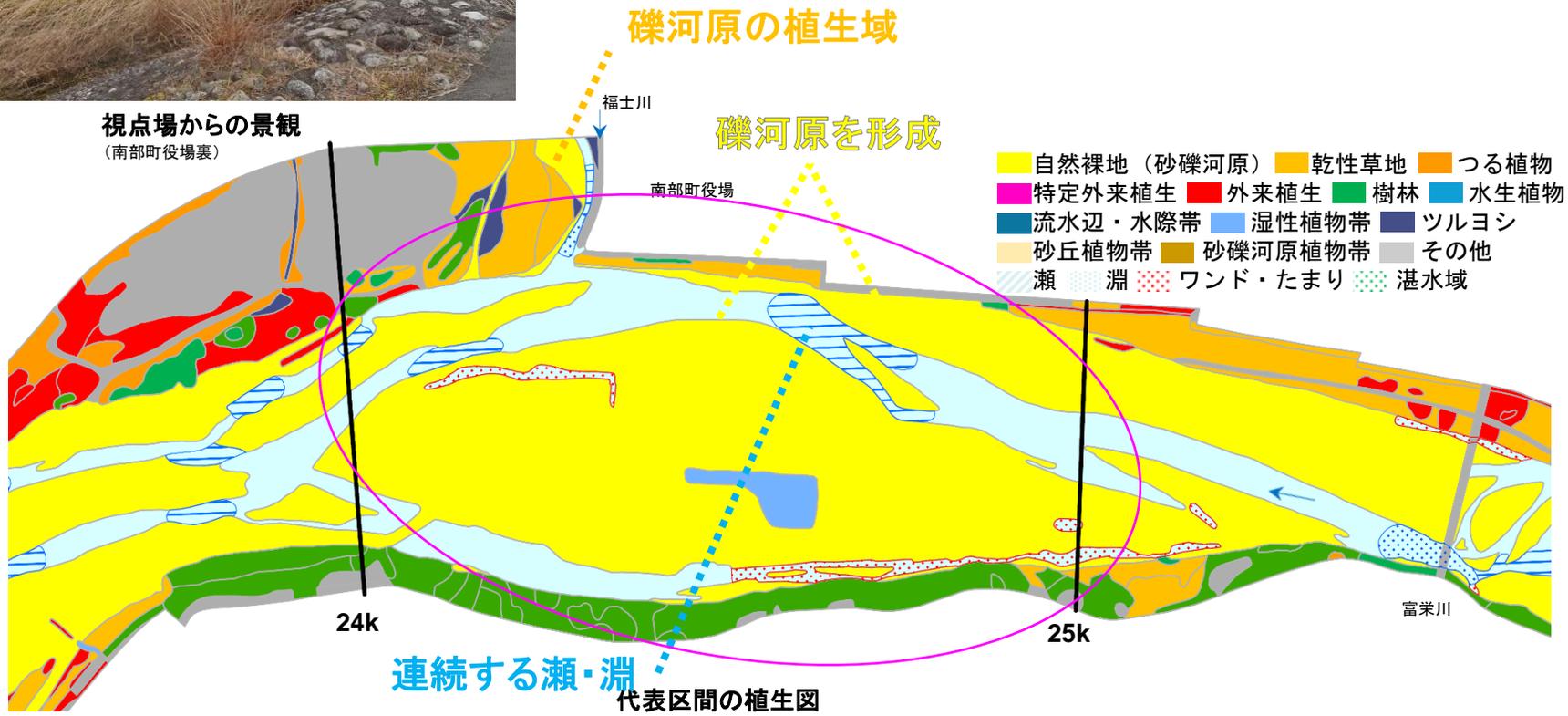
○代表区間である24km～25kmでは、富士川中流部の特徴的な環境要素である「礫河原」、「礫河原の植生域」、「連続する瀬・淵」が良好な状態で維持されており、今後、富士川中流部で整備を行う際には、当該区間を見本として良好な環境を維持できるように留意する。



視点場からの景観
(南部町役場裏)



代表的な生物



- 富士川中流部のうち、早川合流部から雁堤上流にかけての区間における代表区間は24km～25kmであり、区間を代表する環境(低・中茎草地、自然裸地、水際の自然度、連続する瀬・淵)が良好で、アユ、カジカ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境、イカルチドリ等が生息・繁殖する礫河原が確認され、さらに地点を見渡せる視点場があることから選定した。
- 河川整備計画の整備箇所のうち 24km～25kmは代表区間に該当するため、整備に当たっては、区間を代表する環境(低・中草地、自然裸地、水際の自然度、連続する瀬淵、ワンド・たまり)の保全を図りながら対応する。

河川環境区分: 富士川中流部 (7km～47km)



★: 代表区間
 ☆: 保全区間

距離標	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46		
河川区分	富士川中流部																																									
大セグメント区分	セグメント1																																									
生息場の多様性の評価値	3	4	2	2	3	1	4	2	2	1	4	2	3	4	4	1	2	5	4	1	2	4	3	1	2	3	2	2	2	2	5	4	2	0	3	3	5	7	2	3		
生物との関わりの強さの評価値	1	3	0	1	1	0	2	1	0	0	3	0	1	1	2	0	3	2	0	0	0	0	2	0	2	3	2	2	1	1	3	3	1	2	2	3	3	3	2	3		
代表区間の選定結果																		★																								
保全区間の選定結果																																										
視点場の有無				○	○		○							○				○	○	×	×		○				×					○					×			○		
河道掘削																																										

○富士川下流部は、河口部で約2,000mに及ぶ広大な川幅を有し、低水路部は多列砂洲を形成するとともに、砂礫河原、海浜性砂丘、干潟や湿地等の多様な環境が見られる。砂礫地には繁殖地として利用するイカルチドリやコアジサシ等が、水域には回遊性のカマキリ(アユカケ)等が生息・繁殖している。また河口では、ハマゴウ等が生息・繁殖している。

○代表区間である1km~2kmは、区分の代表性が高く、カマキリ等が生息・繁殖する連続する瀬・淵、イカルチドリ等が生息・繁殖する自然裸地の評価値が高い。また、生息場の特殊性では、礫河原の植生域、湧水地の評価が高く、さらに地点を見渡せる視点場がある。

距離標		0	1	2	3	4	5	6	
河川区分		富士川下流部							
大セグメント区分		セグメント1							
典型性	陸域	1. 低・中茎草地	○	△	○			○	○
		2. 河辺性の樹林・河畔林	○	△		○			△
		3. 自然裸地	○	○	○	△	△	△	△
		4. 外来植物生育地	×	×	×	×	×	×	×
	水際域	5. 水生植物帯	○		△	○			
		6. 水際の自然度	○	△	△	△	△	○	○
		7. 水際の複雑さ	△	△	○	○	△	△	△
		8. 連続する瀬と淵	○	○	○	△	△	△	△
	水域	9. ワンド・たまり	○	△	○	△	△	△	△
		10. 湛水域			×		×		
	汽水	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-
		12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値		6	1	3	2	0	1	1	
生物との関わりの強さの評価値		2	2	2	0	1	0	0	
視点場の有無			○	×	○	○	○	×	



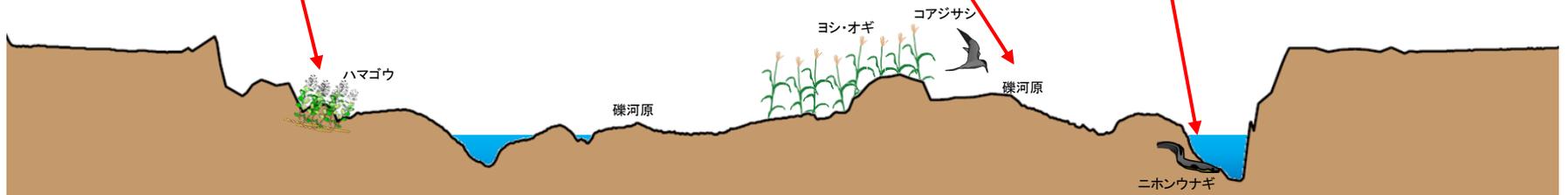
代表区間の斜め写真

河口部の特殊な環境であるため
代表区間選定対象外とした

ハマゴウ等が生息・繁殖する海浜性砂丘や干潟、湿地等多様な環境(河口部)

コアジサシ等の生息・生育・繁殖場となる礫河原

回遊魚であるニホンウナギやカマキリ等の生息・生育・繁殖場である連続する水域



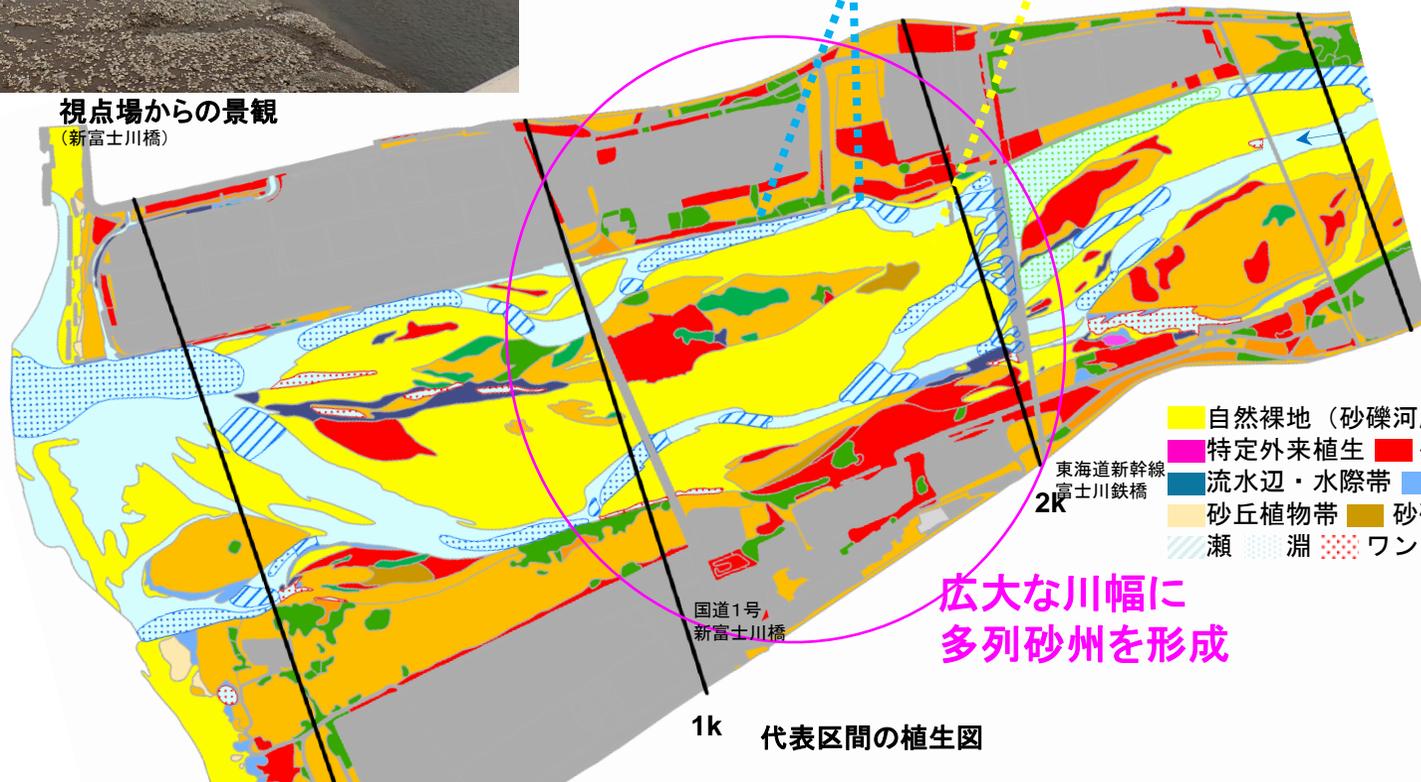
代表区間の断面イメージ

○主な環境:カマキリ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やイカルチドリが生息・繁殖する砂礫河原
 ○代表区間である1km~2kmでは、富士川下流部の特徴的な環境要素である「砂礫河原」、「連続する瀬・淵」が良好な状態で維持されており、今後、富士川下流部で整備を行う際には、当該区間を見本として良好な環境を維持できるように留意する。



代表的な生物

視点場からの景観
(新富士川橋)



砂礫河原を形成

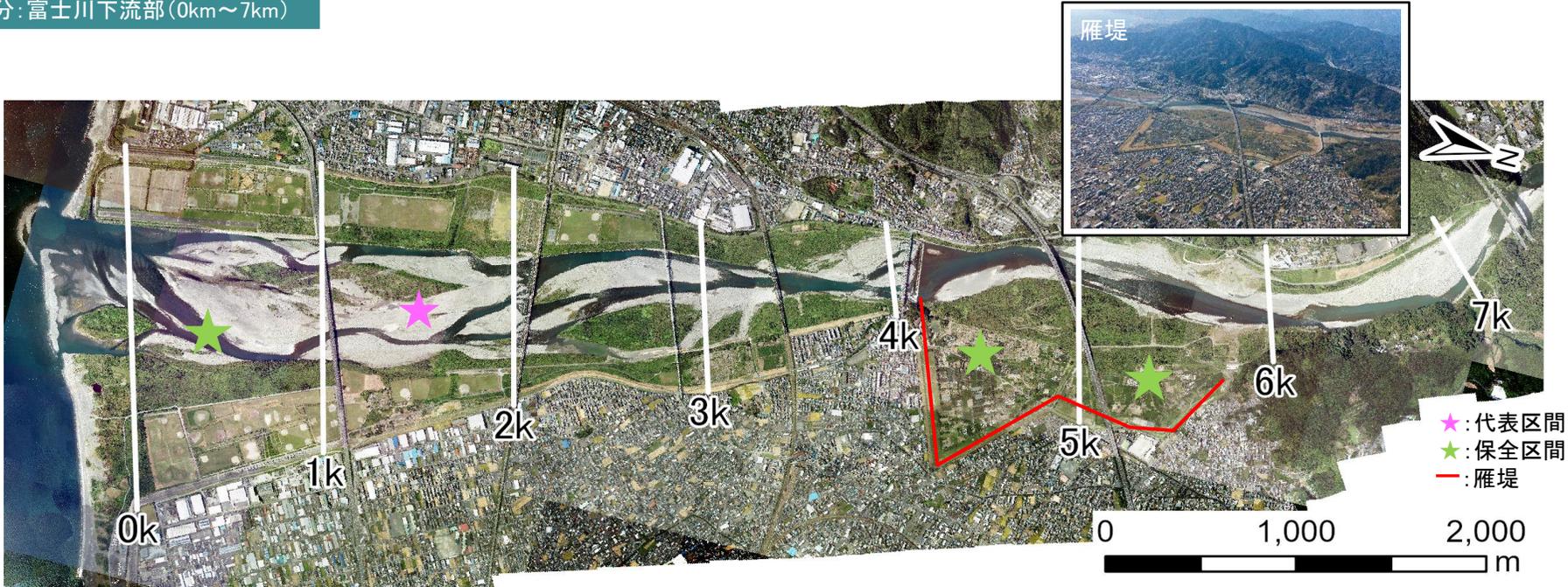
広大な川幅に
多列砂州を形成

- 自然裸地 (砂礫河原)
- 乾性草地
- つる植物
- 特定外来植生
- 外来植生
- 樹林
- 水生植物
- 流水辺・水際帯
- 湿性植物帯
- ツルヨシ
- 砂丘植物帯
- 砂礫河原植物帯
- その他
- 瀬
- 淵
- ワンド・たまり
- 湛水域

河川環境区分と代表区間【富士川下流部】

- 富士川下流部の代表区間は、1km～2kmであり、区分の代表性が高く、カマキリ等が生息・繁殖する連続する瀬・淵、イカルチドリ等が生息・繁殖する自然裸地の評価値が高い。また、生息場の特殊性では、礫河原の植生域、湧水地の評価が高く、さらに地点を見渡せる視点場があることから選定した。
- 保全区間は、0km～1kmは、低水路部は多列砂州を形成し、砂礫地やハマゴウ等の植物が生育する海浜性砂丘、干潟や湿地などの多様な環境が見られ、これらの自然環境を保全対象とした。また、4km～6kmは、歴史文化的に価値の高い治水目的の構造物である雁堤を保全対象とした。
- 河川整備計画の整備箇所のうち 4km～6kmは保全区間に該当するため、整備に当たっては、保全対象である雁堤へ影響がないように対応を図る。

河川環境区分：富士川下流部 (0km～7km)



距離標	0	1	2	3	4	5	6
河川区分	富士川下流部						
大セグメント区分	セグメント1						
生息場の多様性の評価値	6	1	3	2	0	1	1
生物との関わりの強さの評価値	2	2	2	0	1	0	0
代表区間の選定結果		★					
保全区間の選定結果	★				★	★	
視点場の有無		○	×	○	○	○	×
河道掘削							

笛吹川上流部の河川環境

○笛吹川上流部は、河川規模は小さきながら、比較的蛇行が大きく瀬・淵が明瞭である。水際にはミゾコウジュ等が生育・繁殖し、アユ、ウグイ、カワヨシノボリが瀬や淵を産卵場及び生息場としているほか、支川合流部などの流れの緩やかな箇所ではコイ・フナ類、ミナミメダカなどの魚類が生息・繁殖している。コアジサシ、シギ・チドリ類が砂礫地を集団越冬地や繁殖地として利用しており、植物では水際から河原にかけてオギ、ツルヨシ、ヤナギ類等が繁茂しているほか、玉石護岸にはツメレンゲが見られる。

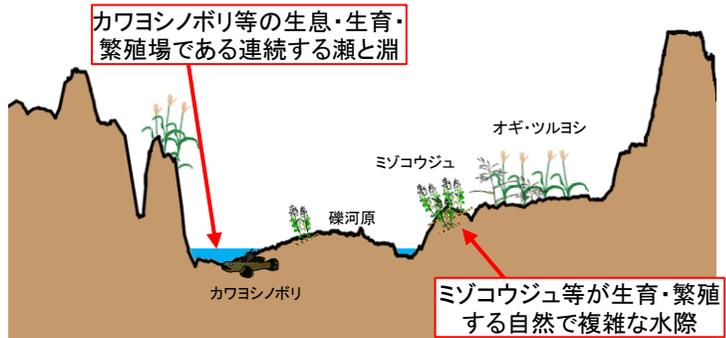
○代表区間である20km～21kmは、区間を代表する環境(自然裸地、水際の自然度、連続する瀬・淵)が良好で、アユ、カワヨシノボリ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やイカルチドリ等が生息・繁殖する礫河原、ミゾコウジュ等が生育・繁殖する水際環境が確認され、さらに地点を見渡せる視点場がある。

距離標		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
河川区分		笛吹川上流部													
大セグメント区分		セグメント1													
典型性	陸域	1. 低・中茎草地	○	○	△	○	△	○	○		△	△	△		
		2. 河辺性の樹林・河畔林	○	○	△	△	△	○	○	△	○	△	○	△	
		3. 自然裸地	○	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	
		4. 外来植物生育地	△	×	×	×	×	×	△	△	△	△	×	×	△
	水際域	5. 水生植物帯	○	△	○	○		△							
		6. 水際の自然度	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△
		7. 水際の複雑さ	○	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△
	水域	8. 連続する瀬と淵	△	△	△	○	○	△	○	△	○	○	○	△	
		9. ワンド・たまり		○	○	○	△	○		△	△		△		
	汽水	10. 湛水域													
		11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値		6	3	3	6	3	6	4	2	3	2	2	0	0	
生物との関わりの強さの評価値		1	0	1	2	2	2	0	1	1	1	1	0	0	
視点場の有無		○			○	○		○	○	×	○	○	○		



代表区間の斜め写真

20km～21kmの自然裸地は区間内で最大級である



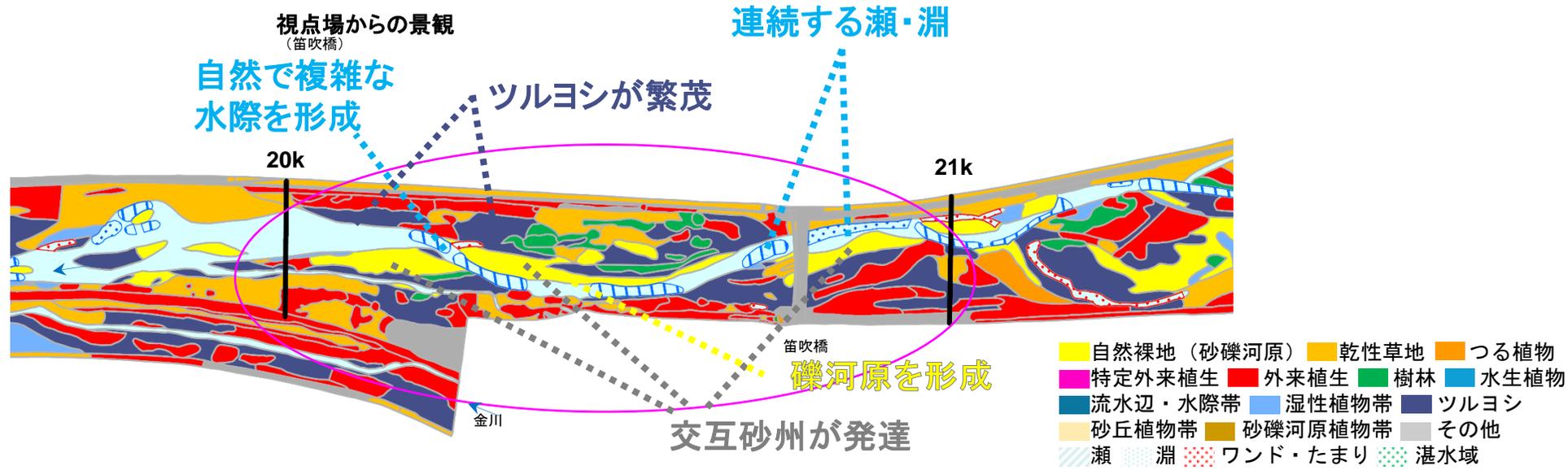
代表区間の断面イメージ

笛吹川上流部の代表区間の河川環境

○主な環境:カワヨシノボリ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やイカルチドリが生息・繁殖する砂礫河原、ミゾコウジュが生育・繁殖する水際環境
 ○代表区間である20km～21kmでは、笛吹川上流部の特徴的な環境要素である「礫河原」、「水際環境」、「ツルヨシ群落」「連続する瀬・淵」が良好な状態で維持されており、今後、笛吹川上流部で整備を行う際には、当該区間を見本として良好な環境を維持できるように留意する。



代表的な生物



代表区間の植生図

河川環境区分と代表区間【笛吹川上流部】

- 笛吹川上流部の代表区間は、20km～21kmであり、区間を代表する環境(自然裸地、水際の自然度、連続する瀬・淵)が良好で、アユ、カワヨシノボリ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やイカルチドリ等が生息・繁殖する礫河原、ミゾコウジュ等が生育・繁殖する水際環境が確認され、さらに地点を見渡せる視点場があることから選定した。
- 保全区間は、24km～26kmは、歴史文化的に価値の高い治水施設である万力林を保全対象とした。
- 河川整備計画の整備個所のうち25km～26kmは保全区間に該当している。整備に当たっては、保全対象である万力林へ影響がないように対応を図る。

河川環境区分：笛吹川上流部(16km～29km)



★: 代表区間
 ★: 保全区間
 ○: 万力林

距離標	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
河川区分	笛吹川上流部												
大セグメント区分	セグメント1												
生息場の多様性の評価値	6	3	3	6	3	6	4	2	3	2	2	0	0
生物との関わりの強さの評価値	1	0	1	2	2	2	0	1	1	1	1	0	0
代表区間の選定結果					★								
保全区間の選定結果									★	★			
視点場の有無	○			○	○		○	○	×	○	○	○	
河道掘削													

笛吹川下流部の河川環境

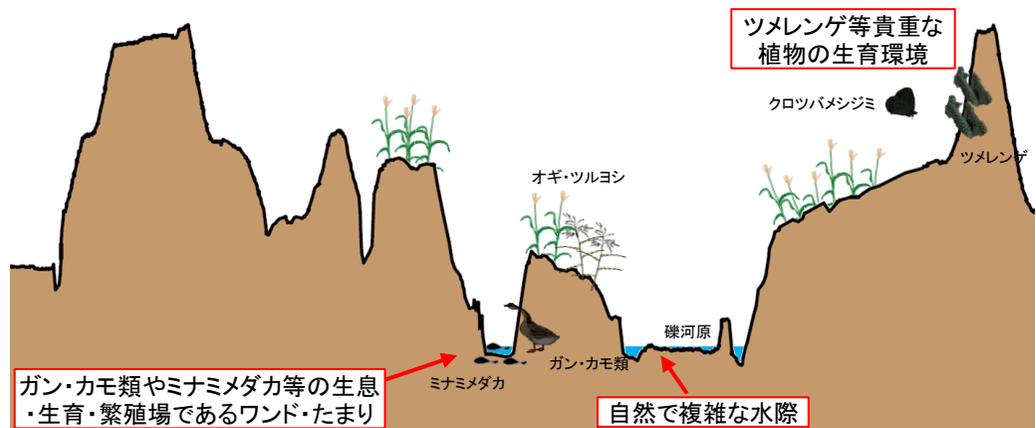
- 笛吹川下流部は、笛吹川上流区間とほぼ同様の魚類が生息・繁殖しているほか、ワンド・たまりにはミナメダカ等が生息・繁殖している。コアジサシ、ガン・カモ類等のほか、水際の樹林をアオサギやカワウが繁殖地として利用しており、水際部にはヨシ等の抽水植物が自生している。
- 代表区間である12km～13kmは、区間を代表する環境(低・中茎草地、水際の自然度、ワンド・たまり)が良好で、ミナメダカ等が生息・繁殖する良好なワンド・たまり環境やイカルチドリ等が生息・繁殖する砂礫河原、オオヨシキリ等が生息・繁殖するオギ群落が確認され、さらに地点を見渡せる視点場がある。

距離標		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
河川区分		笛吹川下流部																
大セグメント区分		セグメント2-2													セグメント2-1			
典型性	陸域	1. 低・中茎草地	○	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	△	○
		2. 河辺性の樹林・河畔林	△	○	△	○	△	△	△	○	△	○	○	○	○	○	○	△
		3. 自然裸地	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○
		4. 外来植物生育地	△	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△	×	△
	水際域	5. 水生植物帯	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△
		6. 水際の自然度	○	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
		7. 水際の複雑さ	△	△	○	○	△	△	△	△	△	○	○	○	○	△	△	△
	水域	8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○
		9. ワンド・たまり	△	○	△	○	△	○	△					△	○	○	△	
	汽水	10. 湛水域																
		11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値		4	4	5	5	2	2	-1	2	4	2	3	2	4	4	4	3	
生物との関わり強さの評価値		1	2	1	2	0	1	0	1	2	0	0	0	1	1	1	1	
視点場の有無		○				○		×	○				○	○	○	○		



代表区間の斜め写真

12km～13kmは△であるものの、ほぼ中央値の自然裸地がある。



代表区間の断面イメージ

笛吹川下流部の代表区間の河川環境

○主な環境: ミナミメダカ等が生息・繁殖する良好なワンド・たまり環境やイカルチドリが生息・繁殖する砂礫河原、オオヨシキリが生息・繁殖するヨシ群落・オギ群落

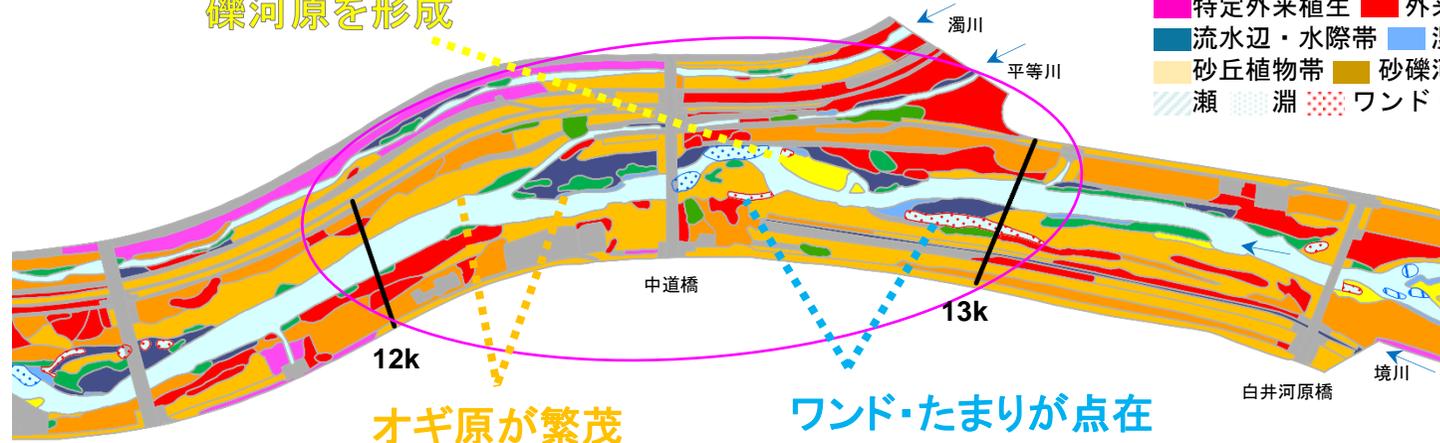
○代表区間である12km～13kmでは、笛吹川下流部の特徴的な環境要素である「ワンド・たまり」、「礫河原」、「ヨシ群落・オギ群落」が良好な状態で維持されており、今後、笛吹川上流部で整備を行う際には、当該区間を見本として良好な環境を維持できるように留意する。



代表的な生物

視点場からの景観
(中道橋)

礫河原を形成



オギ原が繁茂

ワンド・たまりが点在

- 自然裸地 (砂礫河原)
- 乾性草地
- つる植物
- 特定外来植生
- 外来植生
- 樹林
- 水生植物
- 流水辺・水際帯
- 湿性植物帯
- ツルヨシ
- 砂丘植物帯
- 砂礫河原植物帯
- その他
- 瀬
- 淵
- ワンド・たまり
- 湛水域

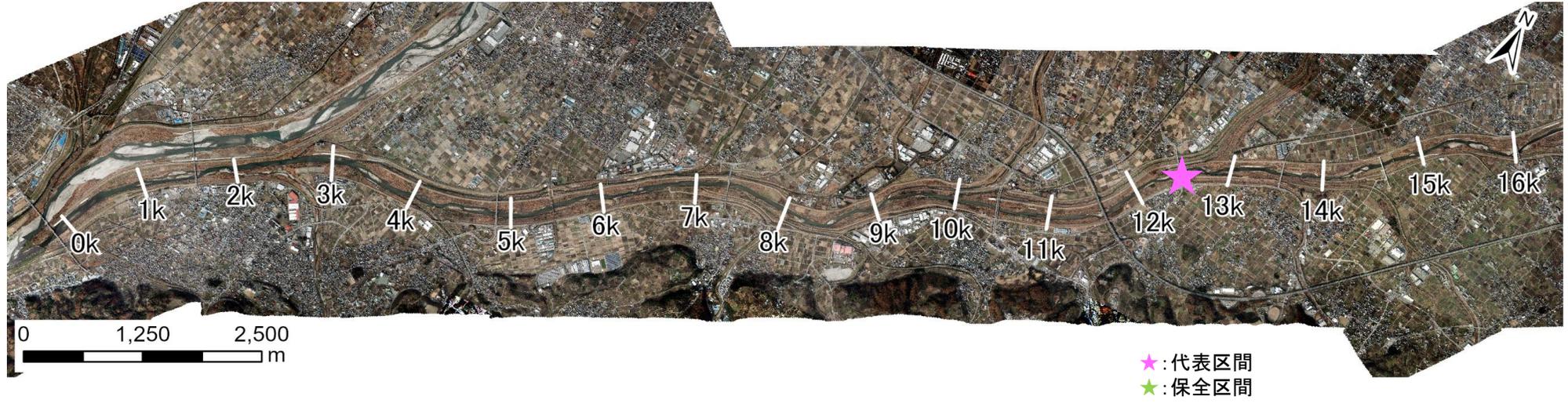
中央自動車道
笛吹川橋

代表区間の植生図

河川環境区分と代表区間【笛吹川下流部】

- 笛吹川下流部の代表区間は、12km～13kmであり、区間を代表する環境(低・中茎草地、水際の自然度、ワンド・たまり)が良好で、ミナミメダカ等が生息・繁殖する良好なワンド・たまり環境やイカルチドリ等が生息・繁殖する砂礫河原、オオヨシキリ等が生息・繁殖するオギ群落が確認され、さらに地点を見渡せる視点場があることから選定した。
- 河川整備計画の整備箇所が、代表区間や保全区間と重なる区間はない。

河川環境区分：笛吹川下流部(0km～16km)



★：代表区間
 ☆：保全区間

距離標	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
河川区分	笛吹川下流部															
大セグメント区分	セグメント2-2													セグメント2-1		
生息場の多様性の評価値	4	4	5	5	2	2	-1	2	4	2	3	2	4	4	4	3
生物との関わりの強さの評価値	1	2	1	2	0	1	0	1	2	0	0	0	1	1	1	1
代表区間の選定結果													★			
保全区間の選定結果																
視点場の有無		○			○		×	○			○		○	○	○	
河道掘削																

優先種・指標種の設定

- 生息範囲の拡大、個体数の増加が求められる種を「優先種」として設定した。
- 優先種のうち、環境定量目標を定めた生息・生育の状態変化を指標する種を「指標種」として設定した。

■優先種・指標種の設定フロー

優先種 の設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 確認種リストの整理 ● 確認状況(個体数)変化の整理 ● 生息範囲の拡大、個体数の増加が求められる種の抽出 ➔生息範囲の拡大、個体数の増加が求められる種を「優先種」として設定
------------	--

指標種 の設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 優先種が求める環境条件の整理 ● 保全・創出対象とする環境に依存する種の抽出 ➔優先種のうち、環境定量目標を定めた生息・生育場の状態変化を評価する指標として適した種を「指標種」として設定
------------	---

■優先種設定:生息範囲の拡大、個体数の増加が求められる種の抽出根拠

①絶滅危惧種	②法的保護種	③消失種	④潜在的消失種	⑤減少種	⑥注目種
RDB、RL掲載種	天然記念物等	20年以上未確認	10~15年未確認	大幅な個体数減少	象徴的な種 河川基本方針 記載種 保全対象種群 等

【検討に用いたデータ】

- ・河川環境基図: H18年度、H28年度、R3年度の調査結果を対象とした
- ・魚類: H31年度までの調査結果を対象とした
- ・鳥類: R4年度までの調査結果を対象とした
- ・植物: H29年度までの調査結果を対象とした
- ・底生動物: R2年度までの調査結果を対象とした
- ・陸上昆虫類: H30年度までの調査結果を対象とした
- ・両生類・爬虫類・哺乳類: H25年度までの調査結果を対象とした

: 指標種

河川区分	セグメント	特徴的な環境要素	優先種	番号	選定理由 ①絶滅危惧種、②法的保護種、③消失種 ④潜在的消失種、⑤減少種、⑥注目種
富士川上流部(釜無川)	1、2、1	礫河原	カワラニガナ	① ④ ⑥	・ 絶滅危惧種(環境省NT、山梨県VU)であり、近年、確認されていない種である。また、河川水辺の国勢調査(H29)のアドバイザー指摘種である。
			カワラヨモギ	⑤ ⑥	・ 基本方針に記載のある種であり、富士川の特徴である礫河原に生育する種であることから選定した。
		草地環境	コマツナギ	⑤ ⑥	・ 基本方針に記載のある種であり、草地に生育し、昆虫類(ミヤマシジミ)の食草として利用される本種を選定した。
			ミヤマシジミ	① ④ ⑥	・ 基本方針に記載のある種であり、草地に生息・繁殖する種であることから選定した。
		オギ群落	カヤネズミ	①	・ 絶滅危惧種(山梨県N)であり、ヨシ原・オギ原に生息・繁殖する種であることから選定した。
			オオヨシキリ	⑥	・ 夏鳥として渡来し、ヨシ原・オギ原に生息・繁殖する種であることから選定した。
		連続する瀬・淵	オイカワ	⑥	・ 注目種の純淡水性魚類であり、連続する瀬と淵を利用する種である。
			ウグイ	⑥	・ 基本方針に記載のある種で、連続する瀬淵を利用する種であることから選定した。
			アユ	⑥	・ 基本方針に記載のある種で、水産有用種の回遊性魚類であり、連続する瀬淵を利用する種であるが、放流の影響を受ける。
			カワヨシノボリ	① ⑥	・ 注目・重要種の純淡水魚類であり、連続する瀬淵を利用する種である。

：指標種

河川区分	セグメント	特徴的な環境要素	優先種	番号	選定理由 ①絶滅危惧種、②法的保護種、③消失種④潜在的消失種、⑤減少種、⑥注目種
富士川中流部	1、2-1	礫河原	イカルチドリ	① ⑥	基本方針に記載のある種かつ絶滅危惧種(静岡県NT)であり、富士川の特徴である礫河原を繁殖場として利用する種であることから選定した。
			コアジサシ	① ③ ⑥	絶滅危惧種(環境省VU、山梨県VU、静岡県NT)であり、富士川で個体数が顕著に減少傾向にある本種を選定した。また、富士川の特徴である礫河原を繁殖場として利用する種であることから選定した。
		礫河原の植生域	カワラヨモギ	⑤ ⑥	富士川の特徴である礫河原に生育する種であることから選定した。
			カワラハハコ	⑥	富士川の特徴である礫河原に生育する種であることから選定した。
		オギ群落	カヤネズミ	① ⑥	絶滅危惧種(山梨県N)であり、ヨシ原・オギ原に生息・繁殖する種であることから選定した。
			オオヨシキリ	⑤ ⑥	夏鳥として渡来し、ヨシ原・オギ原に生息・繁殖する種であることから選定した。
		崖地	カワセミ	⑤ ⑥	基本方針に記載のある種であり、水辺を利用する種であることから選定した。

河川区分	セグメント	特徴的な環境要素	優先種	番号	選定理由 ①絶滅危惧種、②法的保護種、③消失種④潜在的消失種、⑤減少種、⑥注目種
富士川中流部	1、2-1	連続する瀬・淵	オイカワ	⑥	注目種の純淡水魚類であり、連続する瀬と淵を利用する種である。
			ウグイ	⑥	基本方針に記載のある種で、連続する瀬淵を利用する種である。
			アユ	⑥	基本方針に記載のある種で、水産有用種の回遊性魚類であり、連続する瀬淵を利用する種であるが、放流の影響を受ける。
			カジカ	① ⑥	絶滅危惧種(環境省NT、山梨県N、静岡県CR)であり、礫河原・瀬環境を指標する種であることから選定した。
			カワヨシノボリ	① ⑤ ⑥	注目・減少・重要種の純淡水魚類であり、連続する瀬淵を利用する種である。



: 指標種

河川区分	セグメント	特徴的な環境要素	優先種	番号	選定理由 ①絶滅危惧種、②法的保護種、③消失種 ④潜在的消失種、⑤減少種、⑥注目種
富士川下流部	1	海浜性砂丘環境	ハマアカザ	① ③	・ 絶滅危惧種(静岡県N-I)であり、近年、確認されていない種である。
			ハマゴウ	⑤ ⑥	・ 基本方針に記載のある種であり、河川水辺の国勢調査(H29)のアドバイザー指摘種である本種を選定した。
		礫河原	イカルチドリ	① ⑥	・ 絶滅危惧種(静岡県NT)であり、富士川の特徴である礫河原を繁殖場として利用する種であることから選定した。
			コアジサシ	① ④ ⑥	・ 基本方針に記載のある種かつ絶滅危惧種(環境省VU、静岡県NT)であり、富士川で個体数が顕著に減少傾向にある本種を選定した。また、富士川の特徴である礫河原を繁殖場として利用する種であることから選定した。
		連続する瀬・淵	オイカワ	⑥	・ 注目種の純淡水性魚類であり、連続する瀬淵を利用する種である。
			アユ	⑤ ⑥	・ 水産有用種の回遊性魚類であり、連続した瀬淵を利用する種であるが、放流の影響を受ける。
			ウグイ	⑥	・ 注目種の純淡・回遊性魚類であり、連続する瀬淵を利用する種である。
			カマキリ	① ⑤	・ 絶滅危惧種(環境省VU)であり、連続した瀬淵を利用する回遊性魚類であることから選定した。

：指標種

河川区分	セグメント	特徴的な環境要素	優先種	番号	選定理由 ①絶滅危惧種、②法的保護種、③消失種 ④潜在的消失種、⑤減少種、⑥注目種
笛吹川上流部	1	礫河原	イカルチドリ	⑤ ⑥	• 基本方針に記載のある種であり、富士川の特徴である砂礫地を繁殖場として利用する種であることから選定した。
			水際環境	ミゾコウジュ	① ⑥
		ツルヨシ群落	カヤネズミ	① ⑥	• 絶滅危惧種(山梨県N)であり、ヨシ原・オギ原に生息・繁殖する種であることから選定した。
			オオヨシキリ	⑥	• 夏鳥として渡来し、ヨシ原に生息・繁殖する種であることから選定した。
		連続する瀬・淵	オイカワ	⑥	• 注目種の純淡水性魚類であり、連続する瀬と淵を利用する種である。
			カワヨシノボリ	⑥	• 基本方針に記載のある種であり、礫河原・瀬環境を指標する種であることから選定した。

河川区分	セグメント	特徴的な環境要素	優先種	番号	選定理由 ①絶滅危惧種、②法的保護種、③消失種 ④潜在的消失種、⑤減少種、⑥注目種
笛吹川下流部	2-1、2-2	礫河原	イカルチドリ	⑤ ⑥	• 基本方針に記載のある種であり、富士川の特徴である砂礫地を繁殖場として利用する種であることから選定した。
			ヨシ群落オギ群落	オオヨシキリ	⑥
		ワンド・たまり	ミナミメダカ	① ⑥	• 基本方針に記載のある種かつ絶滅危惧種(環境省VU、)であり、ワンド・たまりを利用する種であることから選定した。
			ガン・カモ類	⑥	• 基本方針に記載のある種であり、ワンドたまりを利用種であることから選定した。

河川区分	セグメント	特徴的な環境要素	現況の評価	指標種	保全/創出	環境保全・創出メニュー
富士川上流部 (釜無川)	1、 2-1	礫河原	概ね維持されている	(植物)カワラヨモギ(自然裸地)⑤⑥	保全・創出	・ 河道掘削の工夫
		草地環境	概ね維持されている	(植物)コマツナギ(草地)⑤⑥		
		オギ群落	やや減少傾向	(哺乳類)カヤネズミ(オギ群落)① (鳥)オオヨシキリ(オギ群落)⑥		
		瀬・淵	維持されている	(魚)オイカワ(瀬・淵)⑥ (魚)ウグイ(瀬・淵)⑥		
		外来植物	在来植物への影響が懸念される 対策箇所では抑制されている。			
富士川中流部	1、 2-1	礫河原	概ね維持されている	(鳥)イカルチドリ(自然裸地)①⑥ (鳥)コアジサシ(自然裸地)①③⑥ (植物)カワラヨモギ(自然裸地)⑤⑥ (植物)カワラハハコ(自然裸地)⑥	保全・創出	・ 河道掘削の工夫
		瀬・淵	維持されている	(魚)オイカワ(瀬・淵)⑥ (魚)ウグイ(瀬・淵)⑥ (魚)カジカ(礫河床・瀬)①⑥		
		崖地	概ね維持されている	(鳥)カワセミ(崖地)⑤⑥		
		外来植物	在来植物への影響が懸念される			

河川区分	セグメント	特徴的な環境要素	現況の評価	指標種	保全/創出	環境保全・創出メニュー
富士川下流部	1	海浜性砂丘環境	砂浜は年変動が大きい概ね維持されている	(植物)ハマゴウ(自然裸地)⑥	保全・創出	<ul style="list-style-type: none"> 河道掘削の工夫
		礫河原	砂礫河原は概ね維持されている	(鳥)イカルチドリ(自然裸地)①⑥ (鳥)コアジサシ(自然裸地)①④⑥	保全・創出	
		瀬・淵	維持されている	(魚)オイカワ(瀬・淵)⑥ (魚)ウグイ(瀬・淵)⑥ (魚)カマキリ(瀬)①⑤		
		外来植物	在来植物への影響が懸念される			
富士川下流部 5.0km～6.0km	1	礫河原	砂礫河原の減少	(鳥)イカルチドリ(自然裸地)①⑥ (鳥)コアジサシ(自然裸地)①④⑥	保全・創出	<ul style="list-style-type: none"> 河道掘削の工夫により礫河原環境を25ha程度存在
		瀬・淵	維持されている	(魚)オイカワ(瀬・淵)⑥ (魚)ウグイ(瀬・淵)⑥ (魚)カマキリ(瀬)①⑤		
		外来植物	在来植物への影響が懸念される			

河川区分	セグメント	特徴的な環境要素	現況の評価	指標種	保全/創出	環境保全・創出メニュー
笛吹川上流部	1	礫河原	概ね維持されている	(鳥)イカルチドリ(自然裸地)⑤⑥	保全・創出	<ul style="list-style-type: none"> 河道掘削の工夫
		水際環境	概ね維持されている	(植物)ミゾコウジュ(草地)①⑥		
		ツルヨシ群落	概ね維持されている	(哺乳類)カヤネズミ(オギ群落)①⑥ (鳥)オオヨシキリ(オギ群落)⑥		
		瀬・淵	維持されている	(魚)オイカワ(瀬・淵)⑥ (魚)カワヨシノボリ(礫河床)⑥		
		外来植物	在来植物への影響が懸念される増加傾向がみられる			
笛吹川下流部	2-1、2-2	ワンド・たまり	維持されている	(魚)ミナミメダカ(ワンド・たまり)①⑥ (鳥)ガン・カモ類(ワンド・たまり)⑥	保全・創出	<ul style="list-style-type: none"> 河道掘削の工夫
		礫河原	減少傾向にある	(鳥)イカルチドリ(自然裸地)⑤⑥		
		ヨシ群落・オギ群落	概ね維持されている	(鳥)オオヨシキリ(オギ群落)⑥		
		外来植物	在来植物への影響が懸念される増加傾向がみられる			